

## みんなの相談室 「メデイカルカフェ」 を開催

4月12日(木)、地域医療センターかさまで、みんなの相談室「メデイカルカフェ」がスタートしました。

メデイカルカフェは、市立病院、地域包括支援センター、保健センターが連携して行う事業で、医師をはじめ理学療法士や保健師などの専門職の方の話を聞いたり、日ごろの悩みや受診のときには聞きにくいことなどを気軽に相談したりすることが出来ます。

毎月一回、木曜日に開催され、だれでも参加することが出来ます。カフェでは自らが健康づくりを進めるきっかけづくりを提案していきます。



専門職と気軽に相談することができます。

## 就学前教育アドバイザー がスタート

4月23日(月)、市が今年度から導入した「就学前教育アドバイザー」の役割や取り組みについて説明会が行われ、市内幼稚園や保育所の関係者など約25名が参加しました。

就学前教育アドバイザーは、発達障害や知的障害など特別な支援を必要とする子どもへの対応を小学校入学前の早い段階から進めて、その子にあった適切な対応につなげていくものです。アドバイザーに就いた臨床発達心理士の内田幸枝さんは、「どんな子どもに対しても適切な教育が受けられるよう手助けしていきたい」と話していました。

今後は、各幼児教育施設を巡回して、発達障害などの早期発見と切れ目のない支援を行っていきます。



参加者へ役割や取り組みについて説明を行う内田さん

## 大相撲笠間場所が やってきた

4月25日(水)、大相撲春巡業の笠間場所が笠間市民体育館で開かれ、茨城県出身の横綱 稀勢の里 関や大関 高安関などを一目見ようと市内外から約2,300人の方が来場しました。

巡業場所では、取組の際テレビでは味わえない力士同士がぶつかり合う衝撃音を感じたり、力士との写真撮影をしたり、相撲をより身近に感じることができました。特に横綱 稀勢の里関の土俵入りでは、一際大きな声援が送られていました。

また、開始にあたり笠間特別観光大使のNEVAGIVEUPが国歌斉唱を独唱し華を添えるなど、笠間市が熱く盛り上がった一日となりました。



横綱稀勢の里の土俵入り

## 合気道の聖地で大祭

4月29日(日)、合気神社で大祭が行われ、国内外から集まった約1,400名の人々が見守る中、植芝守央道主、植芝充央茨城支部道場長が奉納演武を行いました。

合気道は現在、130を超える国や地域に広がっていて、合気道の聖地と呼ばれている合気神社には、日本中はもちろん世界中の人々が参拝に訪れています。

今年は、ブラジルやブルガリア、ドイツなどから内弟子5名が、いつもの稽古着からスーツに着替え参加しました。

8月4日には全国高等学校合気道演武大会が行われ、来年開かれるいきいき茨城ゆめ国体では、合気道がデモンストレーション種目となっています。



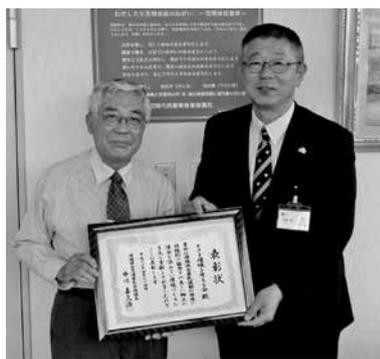
演武を披露する植芝道主

# まちの話題

## 環境保全茨城県民会議 議長賞を受賞

5月2日(水)、かさま環境を考  
える会(吉武和治郎会長)が、美  
しい郷土の保全と住みよい環境づ  
くり長年尽力された功績が認め  
られ、環境保全茨城県民会議議  
長から表彰をうけ、市に表敬されま  
した。

同会は、笠間市のすばらしい環  
境を保全するために市と協働で、  
身近な自然や環境の保全について  
考え、自主的な活動を展開してい  
るボランティア団体です。取り組  
みとしては、自然観察会の開催や  
オオキンケイギクをはじめとする  
特定外来生物を増やさないように  
防除の実施、その他にも不法投棄  
の防止や環境に関する研修視察な  
どを行っています。



左から、吉武さん、近藤副市長

## 岩崎シェフによる 笠間食材セレクション トークショー&ランチ

5月3日(木)、かさま歴史交流  
館井筒屋でクルーズトレイン  
「TRAIN SUITE四季島」(以  
下、四季島)の総料理長 岩崎均シェ  
フによるトークショー&笠間の食  
材を使用した特製ランチ会が開催  
されました。

トークショーで岩崎シェフは  
「四季島は地域をつなぐ架け橋。  
地域の良いものを多くの方に伝え  
ていきたい。笠間の食材や笠間焼  
は質が高くとても評判が良い」と  
四季島と笠間の魅力をPRしまし  
た。

その後、四季島で使われている  
常陸牛や笠間産の栗、しいたけ、  
さつまいもを使用したカレーライ  
スとスープの特製ランチが参加者  
に提供されました。

四季島では、笠間の食材のほか  
和食器はすべて笠間焼が使われて  
いるとのこと。  
と。豪華列  
車に認めら  
れた笠間の  
素材が今日  
も優雅な旅  
に花を添え  
ています。



笠間の魅力を語る岩崎シェフ

## 「農業とわたしたちの くらし」を寄贈

5月10日(木)、子どもたちの食  
や農業への興味関心を高めるた  
め、JA常陸から市内全小学校・  
義務教育学校・特別支援学校に保  
護教材「農業とわたしたちのくら  
し」が寄贈され、JA常陸代表理  
事専務の森貞男さんから、今泉  
教育長へ手渡されました。

子どもたちに向けて食農教育な  
どを行うこの取り組みは、今年で  
10年目になります。JA常陸の森  
さんは「私たちは動物や植物の命  
をいただいて生きている。子ども  
たちに命を育む農業の大切さを感じ  
たうえで、いただきます、ごち  
そうさま、を言ってもらえたら」と  
話されました。

寄贈された教材は各学校で活用  
させていただきます。



左から、今泉教育長、森さん

## 700人が 3千本を植樹

5月12日(土)、愛宕山で「カス  
ミ共感創造の森」づくりが行われ  
ました。株式会社カスミが主催し、  
関係者の方、ボランティアの方な  
ど約700名が参加し、15種類約  
3,000本を植樹しました。

この取り組みは、植樹などの森  
林づくりを体験することで自然に  
親しみ、環境保全の大切さを共感  
する長期的な活動で、今回で8回  
目を迎え、これまで植えた数は約  
2万本になります。

株式会社カスミ取締役の小浜会  
長は、「8年前に植えた桜の木が、  
現在は2、3倍の背丈になってい  
ます。さらに成長して花が咲くの  
が楽しみです。」と話されました。



参加者の皆さん